



受け継がれる誇りを胸に

全国レベルのパワーに持ち合わせた高い精神力



山本 翔也 Profile

やまもと・しょうや ● 福智町金田在住。小3から柔道、小5からは両立して相撲を始め、中3で柔道は県ベスト8、相撲は県2位という成績を収めた。身長170cm、体重84kgという体格に似合わず、時折のぞかせるあどけない笑顔が印象的。卒業後も大学でレスリングを続ける予定、さらに上を目指すという。スポーツを頑張る子どもたちへは「何事も諦めず、一つのこと信念を持って努力してほしい」とメッセージを送った。

「相手が、6月のインターハイ予選で敗れた相手だったんです。その悔しさもあり、絶対に勝つ」という、その一心でした。国体への出場が決定した7月を、山本さんはこう振り返る。レスリングとの出会いは中学3年生の時。当時力を注いでいた柔道の試合会場で、東鷹高校レスリング部の監督、中野智之先生に声を掛けられ、レスリング部の見学に行った。すでに3年生は引退しており、2年生が1人と1年生が数人。その中の1人が、山本さんの憧れの先輩となった。

「強さはもちろん、入部後は1歳下の自分たちをぐいぐい引っ張ってくれるところに憧れました。一時期、練習のつらさから逃げたことがあったんですが、先輩の励まし

「強さはもちろん、入部後は1歳下の自分たちをぐいぐい引っ張ってくれるところに憧れました。一時期、練習のつらさから逃げたことがあったんですが、先輩の励まし

10月1日開会の「ゆめ半島千葉国体2010レスリング競技」で少年男子グレコ84kg級の出場選手となった山本翔也さん(東鷹高3)。全国レベルのパワーを身につけた彼の、その強さの秘けつを探る。

のおかげで、みんなの期待を背負っていることを実感し、それに応えないと思ひ直したんです。山本さんは毎朝7時から30分間の朝練、放課後は部のキャプテンとして後輩に指導しながら3時間の練習、その後、週2回はジムで1時間半の筋トレを行う。

中野先生は「知識や技術だけ磨けば結果が出るわけではない」と断言する。マットの上では1対1の孤独な戦いに見えるレスリング。だが、その背中を多くの人の応援や期待が後押しし、パワーを与えてくれている。周囲のサポートなしには、本当の強さは得られないのだ。そのことを身を持って感じている山本さんは、普段から何事にも手を抜かず、あいさつや周りへの感謝の心も忘れないよう意識して生活しているという。

「千葉国体は3年間の集大成。もう緊張はありません。楽しみです」。はつきりとそう答えて見せた笑顔には、高校生とは思えないほどの心の強さが映し出されていた。

生涯現役を貫く

美容と健康、結果にストイックなスーパーウーマン



梶原 信子 Profile

かじわら・のぶこ ● 福智町上野在住。36歳の時に娘と母親と一緒にスイミングクラブに通い始めた。水泳の魅力に引き込まれた。40歳で県大会初優勝を果たし、その後も数々の記録を積み重ねている。45歳から社交ダンス、46歳からはトライアスロンにも挑戦。社交ダンスでは免許を取得しており、現在は指導者として活動中。「生涯現役」を目標とし、次にチャレンジしようと思っていることは「ヨガ」。

8月22日に開催された「福岡県民体育大会水泳競技」で10連覇の快挙を達成した梶原信子さん。59歳を迎えてもなお現役アスリートとして活躍している彼女に、「元氣と若さを保ち続ける方法を尋ねた。

両腕を同時に前後に動かし、両足を同時に上下に動かしながら水中を滑らかにかつダイナミックに泳ぐバタフライ。全身を使い、持久力が要求されるこの競技を得意とする梶原さんは、毎年多くの水泳大会に出場。そのほとんどで優勝を勝ち取っている。

そんな梶原さんは、普段から非常にアクティブな女性だ。「下を向いて家に閉じこもっていたら、歳とともにどんどん老化してしまうからね。自分から外に出て行って、人と会い、会話しないと。人に会うと見られていることを意識するし、特に水泳は人前で水着になるから、体のラインまで意識するようにになったね」と梶原さん。プラス思考と美意識が、そのあふれ

んばかりの元氣と若々しさを保つ秘けつのようなのだ。持ち前の精神で、今までもさまざまなことにチャレンジしてきた。それが、水泳に良い影響をもたらした。トライアスロンで得た持久力と脚力は強力なキックを生みだし、ダンスで培った体の姿勢と柔軟性は水中をより滑らかに泳ぐことと結び付けたのだ。

「人と同じことをしていても勝てない。だけどがんばって練習すれば体は応えてくれる」という信念のもと、現在は3つのジムに通いながら1日に2kmを泳いだり、傾斜が強い福智山白雲ラインでのランニングなどを行っている。過酷なはずだが「スポーツは数字で結果が出るのがいいね。出た数字が次への目標になって、がんばる励みになる」と、明るくその魅力を語る。

「80歳で日本新記録を作る」という大きな目標を掲げながら「見た目も中身もきれいに歳をとっていきなさい」という梶原さん。今後も自分磨きを怠ることはない。